

## 令和元年度 第1回総合教育会議 議事録

日時：令和元年7月22日（月）10：10～11：50

場所：佐世保市役所5階 庁議室

出席者：朝長佐世保市長、西本教育長、中島教育長職務代理者、深町教育委員、合田教育委員、内海教育委員

事務局：田所総務部長、宮嶋総務課長、中島総務課長補佐

渡辺子ども未来部長、須藤子ども未来部次長兼子ども政策課長、花野子ども未来部次長兼子ども育成課長

池田教育次長兼新しい学校推進室長、陣内教育次長兼学校教育課長、友永総合教育センター長兼総合教育センター課長、小田副理事兼社会教育課長、松尾総務課長、吉田学校保健課長、山口文化財課長、嶋田スポーツ振興課長、梶山教育センター所長、坂口図書館長、近藤青少年教育センター所長、熊本総務課長補佐

### 【議事録】

#### 【松尾総務課長】

おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから令和元年度第1回総合教育会議を開催いたします。

皆様におかれましては、大変お忙しい中ご出席を賜り、まことにありがとうございます。教育委員会総務課、松尾でございます。市長に議事進行を行っていただくまでの間、私のほうで進行させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

会議に先立ちまして、本日お配りしております資料の確認をお願いいたします。まず、A4判の縦でございますけれども、本日の会次第、それから、説明資料として、右肩に資料1、資料2と書いておりますA4判の横の資料が二つございます。さらに、本日追加で、右肩に参考資料と書いております教育振興基本計画第2期の振り返りという資料をお手元に追加してお配りしております。資料はございますでしょうか。

それではここで、会の主宰者であります朝長市長よりご挨拶をいただきたいと思います。

#### 【朝長市長】

皆さん、おはようございます。

本日はお忙しい中お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。日ごろから本市の教育行政に関しまして、皆様方ご熱心に、また、いろいろな立場でご協力をいただいておりますことに対しまして、厚く御礼を申し上げます。

会議に先立ちまして、一言、ご挨拶をさせていただきたいと思っております。

さきの市長選挙におきましては、4期目の当選を果たさせていただくことができました。これも皆様方のお力添えのたまものだと思っております。これまで3期12年にわたりまして、教育行政につきましては皆様のご指導をいただきながら進めることができたと思っております。これからも教育本体、そしてまたスポーツ、文化、佐世保におけます教育の振興につきまして力を入れてまいりたいと思っております。今後とも教育委員会と歩んでまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げる次第でございます。

本日は、令和元年度の第1回目の総合教育会議でございます。私の考え方と教育委員会との考え方を調和させまして、有効に機能させていこうという場でございます。今回もまた忌憚のないご意見を相互に交わすことができればと思っております。

これまでも、教育委員会の皆様とは意思疎通を図りながら、この総合教育会議の場を有効に活用してまいりました。現在、見直しを進めております第6次佐世保市総合計画では、まちづくりの目標といたしまして、「心豊かな人を育むまちづくり」を掲げてまいりました。第7次総合計画においても、教育行政のあり方というものを改めて見つめ直す、そんな時期でございます。本日もしっかりと議論をすることができればと思っております。

本日は、教育大綱と、そして、学校給食費の公会計化についてという二つのテーマについて、教育長をはじめ教育委員の皆様のお考えをご披瀝していただきまして、そして、今後のあり方をしっかりとまとめていきたいと思っております。

短い時間ではございますが、次の世代を担う子どもたち、そしてまた佐世保の教育行政がいかにあるべきかということを中心に私どもは考えていかなければいけないと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げまして、私からのご挨拶にかえさせていただきたいと思っております。

**【松尾総務課長】**

ありがとうございました。

それでは、議事に入らせていただきたいと思います。ここから、主宰者であります朝長市長の進行でお願いいたします。

**【朝長市長】**

それでは、私の進行で会を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願

いたします。

本日のテーマとしては、教育大綱について、そして、学校給食費の公会計化についての2点を準備いたしております。

まず一つ目のテーマ、教育大綱についてでございます。こちらの内容の説明を教育委員会事務局からまずお願いしたいと思います。

#### 【松尾総務課長】

総務課長でございます。

それでは、一つ目の議題、教育大綱について説明をいたします。資料は、右肩に議題1資料と記載している資料をご準備ください。

1ページをお開きください。教育大綱は、平成27年に改正されました地方教育行政の組織及び運営に関する法律、いわゆる地教行法に規定されているものでございます。この中では、地方公共団体の長である市長は、教育基本法第17条第1項に規定する基本的な方針、これは国の教育振興基本計画のことでございますけれども、これを参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとされております。

本市におきましても、この地教行法の改正を受けまして、平成27年9月に現在の教育大綱を策定しております。策定から約4年が経過したことで、国の教育振興基本計画第2期から第3期への改定が平成29年に行われていること、それから市長選があったことから、大綱への見直し、改定の可否を検討する時期にあるものと考えているところでございます。

2ページをお開きください。平成27年度に策定をいたしました今の教育大綱について説明をいたします。現在の教育大綱は、本市における市長と教育委員会との強い連携を反映して、教育振興基本計画と連動することとされています。教育振興基本計画の位置づけとしましては、第6次佐世保市総合計画の活動計画であるとなっております。

ここで、3ページをお開きください。これが現在の教育大綱でございます。お手数ですがけれども、さらに6ページをお開きいただけますでしょうか。

こちらは現在、第2期の佐世保市教育振興基本計画になります。3ページと6ページをそれぞれごらんいただければわかりますとおり、同じ文章になっております。佐世保市教育大綱と佐世保市教育振興基本計画の基本方針というのは同じ文章になっております。それは、市長と教育委員会というのは常に同じ目標を持ち、施策の根本となる方針を一にしているとの考え方が当時ありまして、こういった取り扱いをしているものでございます。

現在、佐世保市教育振興基本計画においても、本市総合計画の改定とあわせま

して第3期の計画を策定しているところであり、ここでの議論も大きく影響を受けるものと考えております。

ここで、佐世保市教育大綱を読み上げたいと思います。

3ページをお開きください。冒頭の3行につきましては省略をさせていただきます。「新しい時代を生き抜くためのたくましさや豊かな心をはぐくむとともに、郷土佐世保を愛し、国家及び国際社会に貢献する市民を育成する。そのため、学校・家庭・地域社会が一体となり学びの社会の実現をめざし、人としての尊厳及び責務を重んじた教育の推進に努める」。これが現在の教育大綱でございます。

さらに、4ページに市民憲章を、5ページには徳育推進のまちづくり宣言をそれぞれ記載しておりますので、ご参考としていただければと思います。

それでは、7ページをお開きいただけますでしょうか。平成29年に策定をされ、平成30年から第3期がスタートしております国の教育振興基本計画でございます。こちらの資料では、2期、平成29年にされました3期を一部抜粋し、ピックアップしたものでございます。左側が平成25年度から平成29年度までの第2期、右側が平成30年度からの第3期でございます。

上段が現状の課題を記述しているものでございます。第2期と第3期を比べますと、赤い部分がほぼほぼ同じ趣旨のことを言っている部分だと解釈されますけれども、少子化や高齢化、グローバル化、地域家庭の変容等を上げているところがございます。また、下の段、基本的な方向性・方針についても、社会を生き抜くための力や学びのセーフティネットの構築など、第2期、第3期で一部見直しがされているものの、普遍的な部分での課題や方向性・方針においては、重なっている部分もあると読み取れます。

続きまして、8ページをご覧ください。こちらは長崎県の教育振興基本計画でございます。一部を抜粋して掲載しております。こちらにも、子どもたちを取り巻く現状と課題、それから基本的な方向性・方針において、一部変更・見直しが行われているものの、赤い部分でございますけれども、2期と3期、普遍的な部分については重なっている部分があります。

さらに9ページをごらんください。こちらが現在、策定作業を進めている佐世保市の総合計画でございます。特別委員会等でも説明した内容について、まだ検討途中ではございますけれども掲載をさせていただいております。ここでは、基本理念・まちづくりの主な課題の中で、少子高齢化の影響や新しい時代に対応する資質や能力、支え合いや他者を思いやる意識、郷土愛の醸成などを掲げております。また、下の段になりますけれども、基本構想でも、豊かな心を育むことや生涯学習・スポーツの環境の充実等を挙げており、こちらの赤い部分ではございますけれども、変更・見直しをしているものの、普遍的な課題や方針については重なっている部分が多くございます。

以上のことを参考に、教育大綱についてご議論をいただければと思っております。説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

#### 【朝長市長】

ありがとうございました。

教育委員の皆さんのそれぞれのお立場からの思いや、教育大綱に限らず、佐世保市における教育のあり方など、考えをお持ちではないかと思えます。委員の皆様のご意見をお聞かせいただきたいと思います。

まず、学校教育の視点による意見ということで、中島委員お願いします。

#### 【中島教育長職務代理者】

教育方針及び大綱の手法の「中核」となっています、「学校・家庭・地域社会が一体となり学びの社会の実現をめざし」について、意見を述べさせていただきます。

昨年12月に「教育委員」を仰せつかりまして、まだ半年余りですが、様々な体験をさせていただきました。私自身、教員出身ですので、特に、「学校教育以外」の、生涯学習、スポーツ、PTA、民間の関係団体といった社会教育の分野の研修会にも、できるだけ参加させていただきました。その中で、いろんな情報を得ることができました。

また、それぞれの立場で、佐世保市の教育に、献身的に関わっておられる方々の貴重な話を聞くことが出来ました。そこで、冒頭申し上げました、「学校・家庭・地域」の連携の現状についてですが、結論から申し上げますと、それぞれ総じて難しい局面があり、ある意味で過渡期にあるように感じています。

第一に、学校教育、家庭教育、地域力の役割が多様化しており、それぞれの守備範囲が拡大し、境界も不明瞭化、グレーゾーン化してきていますが、そうした中であって、聖域的な場所として守られてきた「学校の中の風景」は、30年前と、個人的には、そう大きくは変わっていないと感じます。

ただ、改めて、学校訪問等で感じていることですが、一番変わったのは、やはり、子ども達が少なくなったということです。佐世保市の小中学校の子ども達の数が一番多かった、いわゆるピークは、昭和61年で、小・中学校併せて約3万7千人いました。それが、今年度（令和元年度）は、1万9千7百人になりました。30数年の間に、約半数に減りました。

それでも、先ほど述べたように、これまでも学校には「変わらない日常」があつて、忙しい毎日を送っていました。しかし、先生や保護者などからいろいろな話を聞く機会が多くなりましたが、今の学校は、昔と比べるといくつかの課題を抱えている状況にあります。一点目として、子ども達、保護者、あるいは地域の

方々の考え方や価値観等の多様化により、問題が広範囲化、複雑化、潜在化、深刻化し、それぞれの対応に要するエネルギーが格段に大きくなっています。また、二点目として、それまで、学校、家庭、地域、単独で完結していた問題が、できなくなっているといった傾向があるようです。

加えて、「学校」のパートナーとしての連携・協力して取り組むべき「家庭」や「地域」の力が、残念ながら、少しずつ弱くなっている現状です。3者とも、チームを組んで、一緒になってという必要性は感じているものの、それぞれ余裕がない、支え切れない状況にあるようです。「保護者」の声としては、市PTA連合会の会長様と、たびたびお話をする機会がありますが、まず、市PTA連合会の組織・運営が年々厳しくなっていること、また、学校単位のPTAにおける役員決めやPTA活動も機能しなくなっていること、さらには、会員の未加入、会費の未払いも多くなっている状況にあります。

また、「地域」の声として、社会教育委員長と、自主研修会等で協議をしていますが、まず、地区行事等は役員をはじめ会員の高齢化等により地域で格差があること、また、組織の体力がなく地区行事等ができなくなっていること、さらには、地区自治協議会の運営もなかなか進まない地区も多いなどといった意見をよく耳にします。

加えて、決定的な現実は、これまでの30年とこれからの30年は、社会変化のスピードが異次元的に異なるということがあります。よく言われますが、「科学技術革新」や「グローバル化」は急激な右上がり曲線で伸びていきます。地球規模で変化する社会の中で、「教育」に求められる姿や役割は大きく様変わりするでしょう。必然的に、学校の「実情」や「ニーズ」に即応して、柔軟かつスピーディに変化していくことが求められると思います。

教育委員会、事務局も、各課とも精力的に動いておられ感心しています。大変だなと感じていますが、今後も「3者」に対して、進むべき方向を明確に示しながら、それぞれ「任せるところは任せる」、「弱いところはしっかり支援していく」必要があると感じています。

最近、事あるごとに「予測困難な時代」を迎えると言われますが、ただ、最後に私の個人的な意見を述べさせていただければ、「これからの、将来の日本は「先行き不透明であるとか、深刻な状況になる」とか、不安をそそる、ネガティブな意見が多いように感じますが、私は、明るいデータやエビデンスも沢山あるし、いろんな希望の光も見えていると思います。職業柄、教員冥利につきますが、最近も、よく若い先生達から学校の様子について、個人的に、本音で話を交わしています。また、全国各地あるいは海外で活躍している教え子達から「活躍、奮闘」している様子を聞きます。面白いことに、学校ではほとんど目立たなかった子、逆に悪さばかりして、しょっちゅう怒られていた生徒が、意外に立派に成長して

います。

一方で、若くして、病気や事故で命を無くした子ども、青年も多くいます。ただ、いろんな失敗や挫折を繰り返しながらも、必死になって頑張りを続けている教え子も沢山います。「夢」を語ってくれます。勇気づけられています。感性豊かで、柔軟性があり、多様な価値観を受け入れることができます。

いつの時代にあっても、新しい時代を切り拓いていくのは、「今どきの若者」かなと、つくづく感じています。物事を多角的に捉えて、いろんな道具・ツール等を駆使して、生きていくすべを、創り出していく「力や可能性」を持っていると思います。変化の激しい時代の中で育った若者は、私達アナログ世代がいろいろ心配するまでもなく、新しい環境にポジティブに適応し、淡々としなやかに生きて行くのだろうと、無責任な言い方かもしれませんが、そう感じています。

#### 【朝長市長】

ありがとうございました。

問題点の指摘、これからのことについて、変化の激しい時代をどうするのかと、そういう問題提起だったと思います。次に、地域代表ということで、深町委員、お願いできますか。

#### 【深町教育委員】

私は、先日開催されました佐世保市少年の主張大会を見させていただきました。今年は発表内容が、特にグローバル化、多様化しているなど感じました。内容として、留学や海外生活の体験、食品ロスや漂着ゴミ問題、災害復興とオリンピック、AIに支配される未来や自分の将来や人生について、そして、いじめ、不登校、そして郷土愛についても触れられており、どれもすばらしい発表でした。そこに、私はこの大綱にある「新しい時代を生き抜く、郷土、佐世保を愛する国際社会に貢献する市民」というのを感じました。

一方、「学校・家庭・地域社会が一体となり学びの社会実現をめざす」の部分においては、先ほど中島職務代理者もおっしゃいましたが、家庭の教育力の低下をととても感じます。先日訪問した中学校では、地域懇談会を開催されたそうですけれども、その学校の懇談会の保護者の参加がわずか10名。600人近くいる中学校の地域懇談会での出来事です。

また、同じく訪問したとある小学校では、児童の家庭でのゲーム機器の使用時間の制限を設けないでほしいと保護者から要求があったそうで、大変驚きましたが、最近は、おもちゃは散らかるし場所をとるので、遊びに行ってもゲーム機でしか遊べないという家庭もあると聞きました。親としては、ゲーム機器で遊んでいると騒がないし、おとなしいし、目は行き届くしというのもあってかもしれ

ませんけれども、家庭がそれでいいのかなという疑問をほんとうに抱いた次第です。

学校も地域も、児童生徒の健全育成にとっても努めていただいていると感じるのですが、こと家庭においては、家庭の教育力というか、それはまだまだというか、そこを底上げしていくことから始めないといけない状況なのかなと、ちょっと感じております。以上です。

#### 【朝長市長】

ありがとうございました。

家庭の教育力の低下というのは非常によく理解できます。ただ、どうすればいいかというのが妙に難しいところで、これからの課題だと思います。後で、またまとめさせていただきたいと思います。

保護者の視点で、合田委員、お願いいたします。

#### 【合田教育委員】

子どもが大学1年生と高校1年生になりまして、ようやく義務教育が終わったなどほっとしながらも、佐世保市の教育でここまで子どもたちに学力がついたこと、そして人を思いやる気持ちがついたこと、これは私の家庭での教育だけでは絶対にできなかったことを授けていただいたのだと改めて感謝するこの春でした。

私自身が、今年度から看護学校の教員としてフルタイム勤務に復職いたしました。看護学校に来る学生達を見ていますと、この子たちも私の子どもと同じように、佐世保市内で幼児教育を受けて、小学校、中学校に行って、高校で学んで看護学校に入ってきているのですが、能力の差というのがこんなに激しいのかなというのを目の当たりにしております。中島教育長職務代理者が先ほどおっしゃいましたが、子どもたちは学力だけじゃないということを私もこの3カ月、4カ月でひしひしと感じています。生き抜く力こそがこれから求められているのだということを感じています。

そこには、コミュニケーション能力や、臨機応変に対応できる力といったことが含まれるのかなと思います。この10月から幼児教育の無償化ということで、さきの選挙でも大きな話題になりましたけれども、これだけ多くの税金が幼児教育にもこれから投入される中で、佐世保市の幼児教育の質が今どうなのかなということを、家庭の教育力の低下とともに感じているところです。

佐世保市には他市に誇れる幼児教育センターがございますけれども、そのきちんとした運用について、研修に参加された先生方の満足度は99.1%ということで評価をいただいておりますけれども、もっともっと研修に幅を持たせた

り、全職員、佐世保市立の幼稚園だけではなく、私立幼稚園の先生方も全員が足を運べるような研修の深め方というのを望みたいなど保護者の立場で思っているところがございます。また、先ほどの資料の9ページの佐世保市総合計画を見ていると、「心豊かな人を育むまち」、これが基本構想の大きな柱になっております。私が医療現場で感じるのは、非常に今、医療的ケアを受けなければいけない子どもが増えていると実感しております。これは医療の進歩に伴うものだと思うのですが、これまで医療的ケアが必要な子どもさんたちは、ある程度大きくなるまで病院で入院して日常生活を過ごすということが多くございました。ところが、今、医療的ケアの必要な子どもが小児科の病棟にずっと長期入院しますと、今度は妊婦さんの受け入れができなくなります。お腹の赤ちゃんに何か危険があるという妊婦さんが救急車で来たときに、小児科病棟が空いていないことには妊婦さんを受け入れられませんので、となると、佐世保市でもやはり妊婦さんのたらいまわしが起きている。

ですから、この医療的ケア児が少しでも在宅で生活できて、そして、佐世保市内の小学校、幼稚園で教育を受けられるように、佐世保市もインクルーシブ教育を推進していますが、これは全ての子どもを包み込むという徳育にもつながることですので、こういった医療的ケア児の受け入れに対しても、県教委とともに、佐世保市教育委員会も少し意識をして体制を整えなければいけない時期に来ているのかなと思います。実際に、今、私立幼稚園に気管切開をした園児さんが通っているという情報をいただいております。この子どもさんが今度どこに就学するのかなと考えたときに、やっぱり地域で育てたい、こうやって保護者の方がリクエストされたときに、今の佐世保市教育委員会の管理体制でほんとうに受け入れられるのかなという不安もあります。こういったところも含めて、広い目でこの教育大綱も捉えていかなければならないなど私自身、自制を込めて、発言させていただきました。以上です。

#### 【朝長市長】

ありがとうございました。それでは、内海委員、お願いいたします。

#### 【内海教育委員】

教育委員に就任し、6年半が経ちました。その中で、まず私の意識というか、変わったことが二つあります。公務員や学校の先生方に対して、ここまで情熱を傾けて仕事をされているということに気づきました。特に学校の現場に行くと、今、3人の委員がおっしゃったように、現場、学校、それから保護者、子どもたち、大変な状況の中で、ほんとうに汗を流して仕事をされているということを直接拝見し、自分の考え方を見直しました。

また、自分自身、会社の経営をしているので、以前は自身の会社のことばかり考えていました。しかし、教育委員に就任してからは、地域のことや、将来の佐世保の子どもたちに対してどんな教育が必要なのだろうか、どんな子どもに育てほしいのかということを考えるようになり、出張や海外に行く機会があると、その国、その地域でどのような教育をやっているのかと関心を抱くようになりました。日本の中でも、教育のあり方についての捉え方、取り組み方が違うということがよくわかりました。

それからもう一つ、「グローバル化」という言葉がよく出てきますが、その「グローバル化」とは何だろうかということ考えたときに、実は今年になって私の中に芽生えたことがあります。それは、仕事のために、ベトナム、フィリピン、先週は中国と続けて旅行をしたのですが、その際、彼らが一所懸命日本から学ぼうとする姿勢、一方で日本はそれを受け入れようという姿勢を見て、これはひよっとしたら間違いなんじゃないかなと思いました。

謙遜という言葉があります。自分の能力や功績などをおごらず、控え目に振る舞う意をあらわす言葉。私はこの謙遜という言葉が日本人が学んで気づかないといけなのではないかと思いました。なぜか。私は、外国人実習生に関連する仕事をしているのですが、そこで、現地に行って、日本の企業の方をお連れして、面接と一緒に立ち会っています。そのときに、「どうして日本に働きに来るのですか。」と尋ねると、皆さん金銭的な理由をおっしゃいます。「では、金銭を得たらどうするのですか。」と伺いますと、「親の面倒を最後まで見たい」、それから「自分たちの子どもにしっかりした教育を受けさせてやりたい」との言葉をまず必ず聞きます。そのために、貨幣価値が7倍も10倍もある日本に行って、3年間一度も帰らずに仕事をする。特にお母さん方、2歳とか4歳の子どもさんがいらっしゃるにもかかわらず日本に来て働こうとする。その姿勢、それから、実はフィリピンに行って驚いたことですが、20人ほど面接を行った際、「親のために働きに行く」とすべての方がおっしゃいました。果たして日本人はどうでしょうか。「親のため」という言葉が果たして日本の若い世代から出るのだろうか。これは日本が、面倒を見るという意識を忘れ、また、日本に学びに来いという姿勢があり、謙遜という気持ちを忘れてしまっているのではないかなと。

私は中国にも行って思いました。そして先週、ショックを受けて帰ってきました。なぜか。自動車学校の視察だったのですが、20年前には、中国から、勉強のために日本に行ったとのことでした。ヨーロッパも行った、アメリカも行った、とにかくその中で世界一の自動車学校をつくりたいために。日本の今の、少子化で経営的に苦しくなっている姿も見ていると、10年後、15年後は中国もそうなるであろうと。そのために何が必要なのかということを知りたいと聞いて、すごいショックを受けました。

なおかつ、上海に行っても北京に行っても、私が過去に訪問したとき以上に街が綺麗になっている。公園にゴミ一つ落ちていない。この学ぶ姿勢について、過去には、中国に対してやや偏見を持っていたのは事実です。しかし、今回、中国を訪問して私は中国から学べる、学ぶものがあると思いました。フィリピンからも学べる、ベトナムからも学べる。そういう学ぶという気持ちを持つことで、初めてグローバル化で、お互いの文化を認識し合うということ子どもたちに教えていく必要があるのではないかと私は思いました。

もう一つ大事なものは日本の文化です。日本の文化のすばらしさ。特に、茶道や生け花、書道など、そういうものを歴史の中から学んでいく教育の場があると、しつけが自然と私は身についていくのではないかと思います。知識を学ぶことも大事ですけど、体験を通して学んでいく。しかし、幾ら子どもたちにそういう話をしててもわからないかもしれません。しかし、社会人になって、はっと気づいて、「そういえば、あのときああいう学びがあったよな」と。そこが大事だと思いました。

最後に、中島職務代理者が先ほど、学生時代、あまり成績の良くなかったが、今、社会に出て活躍している教え子のことをおっしゃっていました。まさしく私がそうでございます。学生時代、成績はほんとうによくなかったです。しかし、大学に入り社会人になって、何が自分をここまで奮い立たせてくれたかということ、それは海外に行ったことだと思います。数多く海外に行って、嫌なこともつらいことも経験しながら、今の自分が成り立っていると思っていますので、勉強がだめでも社会人になって成功するよという話は、私、ぜひやりたいなと思っています。以上でございます。

#### 【朝長市長】

ありがとうございました。皆さんからそれぞれ貴重なご意見をいただきました。教育長、よろしく願いいたします。

#### 【西本教育長】

教育大綱という大きな方向、そしてそれに基づいて佐世保市がつくっている教育振興基本計画。同じベクトルで我々が進んできたその振り返りをちょっとやってみたのが、今日お配りした教育振興基本計画振り返りという冊子でございます。

その1、2ページに全体をまとめた資料をつけております。少しごらんいただければと思いますが、この大綱に基づく教育振興基本計画で、それぞれの項目・政策名を挙げて、やってきたこと、それから22年度の現状値から29年度の実績値ということで挙げております。

先ほど合田委員もおっしゃいましたが、幼児教育の充実ということでは、保育士さんの満足度が99.1%だとなっておりますが、中身の分析は今から必要だろうと思います。例えば、幼児教育の充実では「まどか教室」をつくっております。確かな学力の向上については専門指導員4人、それから学校司書を増やして24人と、それぞれの内容で取り組みを進めてきて、一定数字的には上がっているものが多いのかなという振り返りをさせております。

しかし、逆に下がっているというか、それも確かにございます。例を挙げますと、スポーツに親しみ度合いを押し量ることができる、体力測定値、これは低下の傾向があります。これはおそらく、運動をよくやる子とあまりやらない子というように、両極に別れつつあるのではないかと推測しています。例えば、中体連の成績は非常にいい生徒がいる一方で、そうでない、体を動かすことを普段行わない生徒も出てきているようです。

そういう振り返りをしっかりと行う必要があります。今年は、佐世保市教育振興基本計画（第3期）策定のための検討委員会を開催いたしますので、そこでしっかりと内容の検討をさせていただこうと思っております。

私の感想ですけれども、3年間教育長をやらせていただきました。教育委員の皆様を前にしますと、この中では、一番経験年数が短い人間でございましてけれども、それでもいろいろなことを勉強させていただきました。特に、地域の教育に対する関心の高まりというのには非常に大きいものと思えました。地区自治協議会が発足しまして、その役員の方々とお話をさせていただきますと、子どもたちに対する関心の非常に高さに気づかされます。登下校の見守りは当然、夏祭りや、地域とともにある学校ということで、支援会議あるいは評議員、そしてコミュニティスクールでは学校運営委員会と、ほんとうに多くの会議に参加し、様々な意見を発信していただいております。

この高まりは少子化の逆と申しますか、チャンスになっている。いわゆる、一人の子どもに対する地域の目が多い。昔は10人に1人の大人だったのが、逆に、1人の子どもに10人の大人が見ている、そういう新たな時代に来ているのではないかと私は思っております。これは絶対に持続させていかなければならないものだと考えております。

もう一つには、現在は、子どもが非常に生きにくい時代です。親の経験則をなかなかうまく子どもに伝えることができない時代です。例えば、私の父は小売業をやっていましたが、もう廃業しました。要するに、10年後の子どもたちの職業観が、我々の職業観と同じかどうかわからない。ほんとうに新しい時代を生き抜くためには、先ほど内海委員もおっしゃいましたが、自分で見て、自分で切り開いていかなければならないという時代です。我々がいろいろ言っても、それがほんとうに10年後通用するかどうかわからない時代である、そういうことを

考えると、この教育大綱の冒頭の、「新しい時代を生き抜くためのたくましさと豊かな心」というのは、ほんとうにこれは欠くことのできない、これからの一番大きな目標の一つだと思っております。

続いて、郷土に対する愛と誇りです。ふるさとに対する愛と誇りは、県外流出と言われながらも、外にいても、ふるさとのことをいつまでも忘れずに、そして心にとめておく、そういった気持ちを醸成していかなければいけない。これは、少子化あるいは人口流出の中で、しっかりと考えていきたいと思っております。これも、大綱の中で欠くことのできないテーマだと考えています。

それからもう一つは、学校・家庭・地域社会。これは中島委員もおっしゃったとおりで、学校の力と、それから深町委員がおっしゃったPTAの加入率の不安定さですね。PTAの加入は任意であるという風潮をどう変えていくか。もっとPTAに入って、しっかり子どもたちを見ていきましょうと、親の意識をどう変えるかということが大きな課題だと思っております。

そして、人としての尊厳。LGBTに見られるような人権意識、あるいはいじめに見られるような命の大切さや思われ方、そういったことについてもしっかりと勉強させていく必要があります。

そういう意味では、この教育大綱は、ほんとうに捉えどころをしっかりと押さえた、研ぎ澄まされた文章になっていると思います。これをどうまた進めていくか、あるいは足りないものは何かについて、皆さんのご意見の中から市長にも提言申し上げて、市長からもいろいろとお言葉をいただけたらなと思っております。私からは以上です。

#### 【朝長市長】

ありがとうございました。

今、それぞれのお立場から貴重なご意見を拝聴させていただきました。

非常に難しい時代に入ってきたという感じを持っています。また、経験則が役に立たないということもあろうかと思えます。また、保護者の皆様が、やはりそういう経験をしていないという。また、これは私たちの時代が悪いのかもしれないけれど、自分の子どもたちにそういう教育ができていない。だから、今の親になった人たちが子どもたちに教育ができない。そういう負の連鎖が、ちょっと今、出てきているのかなという感じがします。

海外の例もお話をされましたけれど、親のためにとか人のためにとかいう気持ちが、確かに日本の中で薄れつつあるのかなという感じを持ちます。

先ほど、PTAに加入しない、会費を払わないとか、あるいは保護者懇談会に10人しか参加していなかったとか、そういうご意見もございましたけれど、昔は、人との話し合いの中で自分を高めることができるという思いがそれぞれに

あったと思いますけれど、そういうものが、今は関係ないという考え方を持つ人たちが増えてきているのかなという感じがします。

そこで、私どもとしては、やはり徳育というのが薄れてしまっているということを感じて、徳育宣言等を行いながら、もっと多くの皆さん方に知らせていこう、そしてまた徹底をさせていこうと思っているわけですが、その徹底の仕方というのがなかなか難しい時代になってきたということですね。

皆さんそれぞれ、一生懸命ご対応されているグループ、先ほども役員の方々ほんとうに一生懸命対応されている、学校の先生も一生懸命だということもよくわかるのですが、しかし、それを他人事みたいに傍観している人たちが片方では増えてきている。そして、そのうちに皆疲れてしまって、役員の方々も、何のためにやっているかわからなくなるという感じになり、その結果、担い手が不足していく。そんなこともあり得るのかなと思います。

そこをどう立て直すかということだと思います。やはり、今、日本に欠けているのは、先ほど、廈門の理工学院の学生の方々と会談をしてきましたが、すごく目が輝いているし、自分たちで切り開かなければいけないというようなハングリ精神があると感じました。中国は豊かになっていますが、やはり貧困も多いし、また、就職も大変だということもあります。そうすると、やはり自分で切り開かなきゃいけないという思いを皆さん持っていらっしゃるなど感じました。

今の日本人というのは、少子化のために、大事に育てられているためか、自分ではなく、他人がやってくれるという風潮さえ出てきているのかなという感じがします。そうではなくて、自分で切り開く、そういう気持ちを強く植えつけさせるような仕組みというのが必要ではないかと思います。

それをどういう形でやっていくか。課題としてはわかっているのですが、実際にどういう形で実現していくかということについては、これは教育委員会として非常に大きな課題だと思います。実際に計画の中で、どういう形で進めていくのかということだと思います。確かに、数値でもってあらわすことも必要だと思いますけれども、数値であらわせないものが、ものすごく大きなものが横たわっているのではないかという感じがしてなりません。しかし、数値は一つのバロメーターであり、それはそれとして大事だと思いますので、今後も継続する必要があるとは思いますが。

私を感じたことを述べさせていただきました。また、それぞれにご意見を聞かれたと思いますが、今度は、それぞれのご意見に対してどう感じられたかということについて、もう一度お話しただければと思いますので、よろしく願いいたします。中島委員、いかがですか。

【中島教育長職務代理者】

親と子の関係ですが、両者の関係については、場面によって「縦」「斜め」「横」の関係があると思いますが、最近では子どもが少なくなったせいもあってか、親と子が「横」に並んでいる立ち位置、位置関係が多いように感じます。親が子どもを異常にかわいがり、最近では、子育ての「ペット化」という言葉も聞くようになりましたが、きれいな洋服を着飾って、丁寧に扱って、転ばせないように、怪我をさせないように先回りしている感じがします。

ただ、逆に信頼関係は希薄化しているように感じます。親に対する尊敬とか、尊厳といったものが弱くなっているような気がします。現在の日本は、確かに「裕福」になりましたが、「豊かさ」はどうかという疑問があります。確かに、経済発展により、物質的には豊かになりましたが、人間と人間の関係、心理的な繋がりはどうでしょうか。そういう意味での「豊かさ」を失っているような気がします。

内海委員もおっしゃいましたが、私もよく海外に行きます。なかには貧困に餓えている国もあります。人口も多く、子ども達も沢山います。ただ、貧しいが故、人と人が助け合っています、生きていくために支え合っています。温かいです、実に「豊か」だと感じます。

これらの国には、経済大国日本が無くしてしまった、大切なものが残っているように感じます。今の日本が、親と子どもの関係をはじめ、人と人との関りが希薄になったのは、こうした発展の「負の産物」の一面であるかもしれません。

これからは、少子高齢化が進んでいく中で、親同士の繋がりも少なくなっている状況で、さまざまな場面での人と人との直接的な「関わり合い」の場を持つことの大切さを感じます。親同士や子ども達同士、また、親と子が、まみえる、ぶつかり合い機会がもっと必要だと思います。もちろん、廻りも、それぞれの立場から子育てを、また、親を支援する様々な体制づくりも、強化していかなければならないと思います。

#### 【朝長市長】

ありがとうございます。続いて深町委員、お願いします。

#### 【深町教育委員】

市長から徳育のことが出ましたので、私も過去を振り返ってみますと必ず徳育のことには触れていますから、今回も触れないわけにはいかないと思います。再び学校訪問の話になりますが、先日訪問した学校に、一徳運動の言葉が校長室と職員室にもものすごく大きな文字で掲げてあり、また、徳育カレンダーも掲示してありました。徳育にかかわった者として、こんなに徳育の推進に努めてくださっていることをうれしく思いました。市長がおっしゃったように、徳育を今、児

童生徒に一生懸命に教えていると、将来、その児童生徒が大人になったときに、少しでも良い大人になってくれるのではないかと感じています。

小中学校において徳育は100%取り組んでおります。どの学校でも一生懸命徳育に努めてくださっています。私たちが、そういう教育を受けていなかったことを教訓に、また、そういう教育を子どもたちにできなかったのを反省して、今、徳育を受けている児童生徒が、将来大人になったときに、自分の子どもたちにそれを教えてくれることを願って、徳育教育にはぜひ力を入れていただきたいと思います。

それと、佐世保市が取り組んでいる「命の教育」です。命を見つめる強調月間として、6月1カ月間を定めていますが、命がどれだけ大切なのか、自分の命だけじゃなく他人の命もみんな命は大切だ、生きていることに意味がある、とにかく命を粗末にしないということを見習って児童生徒に教えて、引き続き根づかせるような教育に取り組んでいきたいなと思っております。以上です。

#### 【朝長市長】

ありがとうございました。それでは合田委員。

#### 【合田教育委員】

P T A活動に携わるようになって16年目に突入しましたが、P T A活動そのものの意義について、P T Aに携わっている方々も何となく今ぶれているのかなという気がしています。それが今の保護者かなと思います。私もできる限りP T Aに関わる側の人間として、内面から働きかけていきたいなと思います。

今、さまざまなお話が出た中で、スポーツの機会が乏しいとか、体力の二極化といったこと、体験不足や、さらには海外のことなどありましたが、やはり全て親の経済格差というところにつながるのかなと思います。

例えば、自分の子育てを振り返ってみても、子どもたちが3歳のときから、教育がまず何よりも大事ということで、3歳のときから体操教室やスイミングなど、あとは私たちが休みのときには必ず海に連れて行く、プールにも連れて行くということをしてきましたし、体験授業にしましても茶道を習わせるなど、学ばせてきたことも多いと思っています。

今度、高1の娘が短期留学しますが、それにも費用がかかりますし、家族で海外旅行に行くのにも費用がかかります。これは、親の経済力がその子どもの物質的な貧困にもつながっているし、そういう体験の貧困化、体験不足というところにもつながっている、この現状がすごく切なく寂しいと思います。

ただ、そういう中で、佐世保市教育委員会が現在取り組んでおります、日本文化の体験授業ですが、これは私の子どもたちにはものすごく大きなプラスにな

り、息子は中学校での体験がもとになり、弓道を始めました。娘も同じく中学校でお琴の授業を受けたので、今、ずっと邦楽部に入ってお琴をしています。そして今度はそれぞれの子どもたちが、礼に始まり礼に終わるという日本文化を、家庭でも実践しているし、周りの大人の方々に対してもそれは実践できているということを親の目からとてもうれしく思っています。

ですから、市でできる部分は公教育で担いながら、家庭の教育でできないところをこれからも引き続き授業として取り組んでいただきたいと思いますと思っているところです。以上です。

### 【朝長市長】

ありがとうございました。内海委員、お願いします。

### 【内海教育委員】

二つ考えました。一つは、先ほどのグローバル化のお話の続きですけれども、先生方がどの程度グローバル化というのを理解し、体験されているのか。勉強はされていると思いますが、しかし、体験する学習を先生方されているのだろうか。それをされると、子どもたちに指導ができるのではないかと思います。

私は県の教職員の採用面接を4年間担当したことがあります。そのときに大学出たばかりの方、それから5年、10年チャレンジをされている方に対し、海外に行かれたことがありますか、どこに行かれたかと必ず質問しました。そうすると、8割から9割は行ったことがないと答えられました。これだけ安く、手軽に海外に行けるのに大変驚きました。よく考えると、教職員になるために一生懸命に勉強されていたのだろう。それで、ぜひ、教職員になられたら、社会学習の意味で勉強に行かれたらどうですかという話をしました。

そして、教育委員になって、佐世保市の先生方といろいろお話しする機会があったときに、海外に行かれた経験はと伺うと、やはり行かれたことのある方は少ない。以前は、県の予算も充分にあって、海外に行く視察があったと伺いました。今はそういう予算もほとんどつきませんとおっしゃいました。何かそこに、教職員になるための一つの条件として、グローバル化コースというのがあるって、必ずそれは基本コースとなり、たくさんの体験をする。学生の中には時間もあるし、お金もそんなにかからない、逆に、貧乏旅行を体験すること、そういう体験を先生方にしてほしいなというのがまず一つです。

それから、今の保護者が持っている価値観や考え方について教育するということは、とてもではありませんがまず難しい。しかし一方で、以前、文化遺産に関する発言をした際、同じような方法を提言したことがあります。親子学習教材としてDVDの教材をつくって、学校でどんな教育がなされているのか、その

中において、グローバル化について現状どうなのかなど、子どもに見せるDVDですが、実は、家庭に持ち帰って保護者の方と一緒に見ていただく。そうすると、学校におけるさまざまな問題がどのように解決されて、どうしているか、どういう方向性に進んでいるかということ、子どもの勉強がメインですが、実は親に見て欲しい教材を入れて、それを親子で見せるというのはいかがかと。DVDをつくる教材費用などがかかるかとは思いますが、保護者の教育に対する価値観が、ひょっとしたら少しずつ近づいていくのではないかと考えました。

先生方へのグローバル教育への推進、それから、家庭において保護者とともに学べる勉強をしたらどうだろうということを考えてみました。以上です。

#### 【朝長市長】

教育長、お願いします。

#### 【西本教育長】

今、内海委員がおっしゃった教職員の海外研修ですが、同意見です。グローバル化と言うならば、先生方に海外を見てきてほしいというのは私たちも思います。県職員の予算をしっかりと取るように、私も努力していきたいと思えます。

それから今年は、次年度から使用する新しい教科書を採択する年となっておりますが、どの教科書にもQRコードがついていて、タブレットにかざして見ると、それが動画として内容が見られるという、非常に進んだ教科書になってきています。これを持って帰って、例えば、道徳の教科書を保護者の方と一緒に見る。新しい試みとしてこのような機能ができてきているのは、学校の生活を家庭に持ち込む、切り離してはいけない、つながっているという認識を持ってもらうことが大事だという考えによるのだと思えます。

さらにPTA活動を、今までは役員選別に四苦八苦、行事が多過ぎて役員になったらほんとうに忙しい。そういう形ではなくて、本来のあるべき姿というものをきちっと見直す時期だと思えます。市長がおっしゃったように学び合いですよね。ここで自分だけだとこれで終わってしまいますが、他人とつながることでさまざまなことを勉強できます、ほかの子どもの様子もわかりますというような、あるべき姿に持っていくことが、家庭を学校に引き戻す、目を向けさせる一番大事なことだと私は思っています。

具体的にはそういうところにも、できることは何なのか考えてみたいと思います。ほんとうにこれが家庭を学校に呼び戻す一番の近道かなと思っていますので、やり方を考えてみたいと思います。以上です。

#### 【朝長市長】

ありがとうございました。幾つかのキーワードがあったのではないかと思います。一つは、中島委員が、「かかわり合い」という言葉を使用されました。かかわり合いを持つという動きを保護者の方々にも言い続けなければならない。何となくかかわり合いは持ちたくないという風潮があります。先ほどのPTAの役員の問題もそうですが、できる限りかかわり合いを持とうよと、そういう働きかけが必要だと思います。

今、多くの団体活動に対して、かかわりをもちたくないという人々が感じている感じがします。もう少しかかわり合いを持とうよ、自分たち自身で世の中をつくっているのではないですかと働きかけ、意識を持ってもらわないといけないのではないかと思います。だから、家庭の中でそういうかかわり合いを持とうよという雰囲気をつくりあげていかなければいけないと思います。

それともう一つ、先生方にこれはまた負担になるかもしれないけど、我々が経験をした中で感じているのが、先生から一言声をかけてもらおうと、実行しなければならないという気持ちを抱きました。若いころの感覚ですから、「先生から頼まれたから、学校のこと、PTAもしなければならない」ということもあるのではないかと思います。先生たちが遠慮をしてかかわるところじゃない、これはPTAが決めることだという感じで、PTAの方々に任せるような状況があるのかもしれませんが、そこで校長先生が一言、「頼むぞ」と言えば動くのかなという感じがしないでもありません。そういうことも含めて、かかわり合いというのが必要じゃないのかなと思っています。

それから、それぞれの学校の中でも、先輩、後輩の流れがあろうと思いますので、保護者の方々のなかで、「あの人は自分の後輩だけど、よく頑張っているので、彼に頼んでみよう」といったことも必要だろうという感じもします。それと、女性、お母様方がPTAでは主流になってきたということもあると思いますが、やはり、父親のかかわりというのが大事だと思います。PTAはお母さんが担当するものだ、ただ、会長は男性に頼もうという、そのような感じになっているところもあろうと思います。そこももう少し父親がかかわる、時間的な余裕というのがないのかもしれないけれど、しかし、少しずつ時間を見つけ合いながらかかわるということをやらなければならないのではないのでしょうか。

深町委員のおっしゃった徳育に関しましては、これはぜひ続けなければならないことだと思っています。永遠の課題だと思っていますので、まず言い続けていきたいと思います。

また、日本文化を体験するという事の中で、私が非常に素晴らしいと思うのは、「道」のつく習い事です。スポーツに関しても柔道、剣道、空手道などがあります。これは単にスポーツを教えるということではなくて、日本人としての芯が通っていると感じています。武道に対する心構えや、あるいは過去の流れとか、

それから、なぜそれをそうするのかというようなこと。武道で道を習った人というのは、スポーツそのものよりも人間としての教えというのも修得される人が多いのかなという感じを持ちますよね。それとやはり、華道にしても茶道にしても、そこに一つの流れというものがありますよね。

そういうものを体験させていく、そこで一回ではわからないけど何回か継続して、10回、20回体験していくと、言わんとしているところがわかってくるのではないかと思います。だから、一回だけの体験だけではなくて、やはり続けて体験させるということも必要かなと感じました。

あと、内海委員がおっしゃった中での、親子で見る教材というのは、先ほど教育長から、いみじくも新しい教科書がそのようになってきているということですが、今度は、保護者の方々にしっかり知らせとかなないと、QRコードはついていけるけれど、これは何に使うのというような感じにもなってくるでしょう。使い方子どもさんたちがしっかり把握をして、保護者の方と一緒に見るという雰囲気づくりをしていかなければいけないと思います。

それから合田委員がおっしゃった中で、経済格差という話も出てきました。これも確かにあると思います。さらには、地域的な有利・不利もあると思います。例えば、宇久を訪問した際に感じたことなのですが、宇久の方々は概ね、中学校・高校を卒業したら、大学に行くにしろ専門学校に行くにしろ、島外に出ていくということが基本です。ですから、そこで保護者の方々は、とにかく自分の力をつけないと世の中は渡っていけないぞということを言い続けていらっしゃるようです。成人式に行きますと、30人ぐらいの成人式ですから一人一人話をされます。そうすると、今、どこそこの大学に通っていますとか、どこそこの専門学校に行っていますと、みんなすごい思いを持って、自分はそこの道で頑張らないと生活できないとか、そんな気持ちを強く持っておられるようです。

昔、長崎県は教育県と言われていましたが、今はあまり教育県とは聞こえてこなくなりました。教育県というイメージづくりも、我々がまだ、高校生から大学生、それから成人に至るころで、当時、長崎県は教育県と強くと言われていました。それを聞くと、「教育県だから、勉強をしないといけない」、「みんなが勉強しているから私も勉強しなければならぬ」と、それぞれの家庭が思っていたという感じがします。そういう掛け声的なこともやっていかなければいけないかなと。

「佐世保市は教育都市だ」という強いイメージづくりということも必要かもしれないですね。

教育大綱を踏まえて、どういう対応をしていくのかということはあるかと思いますが、これからは、自分が大事とする時代だと思います。自分が大事だということは、社会情勢がこれだけ激しく変動していくわけだから、スキルも身につけなければいけないし、いろんな教養も身につけなくてはいけないというこ

と。そして、そのためには、自分がしっかり学んでいかなければいけない、そういうことを意識づける必要があるのではないかという感じを持ちました。

委員の皆様がおっしゃっていたことと同じことを申し上げていると思いますので、そこをまとめ上げることが必要だと思います。よろしく願いいたします。

私のコメントは以上でございます。

それでは次に入ってよろしいですか。次は、学校給食費の公会計化ということでございます。事務局から説明をお願いいたします。

### 【吉田学校保健課長】

学校保健課長でございます。

それでは、学校給食費の公会計化について、資料に基づき説明させていただきます。まず、資料1ページは、学校給食費の現在の管理状況について、経緯等の説明資料となります。なお、これからお話しさせていただく「給食費の私会計」とは、給食費の管理を各学校で行う形態を指す言葉となっております。

1ページに記載のとおり、旧文部省の通達を拠りどころとして、本市を含め全国の多くの自治体で給食費の管理は各学校で行っている現状でございます。そうした状況の中、近年、文科省では、給食費の管理については公会計で行うべきものとの方針に転じております。資料2ページをお開きください。公会計の導入が進められる背景について、①から④まで記載をしております。ちなみに、公会計化、国や地方自治体で管理を行う、いわゆる官庁会計を指す言葉となっております。

資料3ページは、給食費の資金の流れについて、私会計、公会計別に記したフロー図となります。給食費取り扱いに関する両者の違いとしては、保護者が給食費を納める対象が学校となるか佐世保市となるかという点です。

資料4ページは給食費公会計化により想定されるメリット、デメリットについて記した資料でございます。メリットにつきましては、先ほどの公会計導入の背景にて記載している内容に加えまして、給食費免除世帯等の個人情報保護も図られるという効果も想定されます。一方、デメリットとしましては、これまで各学校で行ってきた給食費の管理を市で行うこととなりますので、その新たな経費負担が発生してしまう点と、導入済みの他都市の傾向から、収納率の悪化が懸念されるところでございます。

資料5ページは、先ほど触れさせていただきました、給食費公会計化に向けての文科省からの通知の抜粋を記載したものでございます。ここで記載がありますとおり、国では、学校給食費の管理は学校ではなく、地方自治体が執り行う業務として推進する旨の通知が行われているところでございます。

続いて資料6ページは、公会計導入状況について記載した資料でございます。

県内では平戸市、長崎市、松浦市において、既に導入済みとなっており、大村市においても来年度から実施予定ということになっております。全国的にも公会計化の動きは拡大してきている状況でございます。

資料7ページは、公会計導入に関する問題・課題、本市における方向性について記載を行ったものでございます。問題・課題といたしましては、公会計導入に関しましての周知、説明や、関係各部局間との調整が必要になってくることなどが挙げられます。

本市の方向性としましては、これら課題・問題の整理を行いながら、学校教育現場の教職員の負担軽減と、それに伴う教育の充実を目的とし、給食費の公会計制度を目指していきたいと考えております。

資料8ページから10ページに関しましては、本市給食費に関する各種参考資料として、8ページは本市の給食費の概況の資料、9ページは本市小中学校の給食費の徴収形態についての資料となります。資料10ページは、給食費公会計導入済み県内他都市と本市の状況比較ということで添付をさせていただきます。説明は以上でございます。

#### 【朝長市長】

ありがとうございました。このテーマは先ほどの説明の中でもございましたが、私会計と対応している自治体が多い中、県内においても公会計化に踏み込んだ自治体もございます。本市においても、導入の必要性を感じているところですが、教育委員の皆さんのご意見をお聞かせいただければと思います。

#### 【深町教育委員】

私は、子どもが6年生、4年生、1年生と3人が小学校に在籍していた時期がありますが、3人それぞれに毎月給食費を持たせていました。納入日前に千円札と硬貨を、それぞれ釣り銭がないように用意するといった準備が必要でしたので、公会計化されて口座振替になると、その手間はなくなるのでとても助かると思います。それと、今振り返ってみると、特に低学年にもかかわらず、給食費をランドセルに入れて登校させていたというのは、通学の途中、何があるかもわからなかったのに、危険性があつたのではないかと思います。この公会計化は安全性の確保にもつながりますし、現金を扱うという学校側の負担も減るので、とても良いことであり、遅過ぎたぐらいかなと感じております。

#### 【朝長市長】

ありがとうございました。ほかにございませんでしょうか。中島委員。

### 【中島教育長職務代理者】

私も同じように、公会計化の方向については賛成です。学校にとっては、とてもありがたいと思います。市内全体では実情が異なり、一部の地区では一時的に、未納率が増えるかもしれません。実施手法等を検討する必要があると思いますが、公会計化のメリットは大きいと感じます。

学校の教職員にとっては、朝からいろいろと多忙な中で、給食費を徴収しなくて良いという点は大きいと思います。過去、中学校では、持ってきたお金が無くなるという事案も出て、困ったこともありました。

また、猫の手も借りたいほど、人手が欲しい学校の助けになると思います。お陰様で、佐世保市ではこれまでも、市単独で「少人数指導補助指導員」「学校司書」「特別支援補助指導員」等、学校に対して手厚い応援・支援をいただいております、とても助かっています。今は、給食費の徴収方法について、大半が、銀行での口座振替となっているようですが、お金が学校を通過しないという精神的な安心感は大きいと思います。学校内でお金を扱わなくていいという、目に見えない「安心感」も大きいと思いますし、業務のスリム化になると思います。

さらには、学校内の「良好な人間関係」を損なわないということです。学校の教職員や事務補助と、保護者、あるいは子どもとの督促等による不毛な人間関係の溝、不信感がなくなるということです。その他、保護者の物理的かつ精神的負担も軽減でき、公会計の方向で進めて頂けたらと思います。

### 【朝長市長】

ありがとうございました。ほかにありませんか。

### 【合田教育委員】

私も全く同じ意見です。実務的に、先生方、学校側としても保護者としても、利便性、負担軽減のあり方を考えれば、この公会計化しかないと思っています。

ただ、保護者の立場から運用面でお願いしたいことは、口座振替のための口座の指定について、学校が地銀しか指定してくれないことが多いようです。特に佐世保市は、全国転勤が多いため、わざわざ地銀の通帳をつくって、しかも、学校からの提出書類に追われているという意見があります。全国転勤が多い佐世保市だからこそ、どの金融機関でも取り扱えるようにしていただきたいと思えます。例えば今ネット銀行とかも発達しています。保護者が希望する金融機関、どこからでも納付できるような対応を運用としてはお願いしたいなと思っております。

また、長期的に考えれば、先ほども申しましたように、10月から幼児教育、保育が無償化になって、その中で、近隣の市町では既に保育所、幼稚園の給食の

無料化が決定しているところもございます。そのような中、おそらく長期的に考えると、じゃあ学校給食はどうなのかという意見がもっとももっと上がってくると思います。そういったときに、全額補助は難しくても、2人目、3人目の兄弟は無料とか、一食何十円補助、そういった議論もまた必要になるのではないのでしょうか。学校給食そのものの意義、あり方についても、この公会計化から長期的理論的な発展というのが必要になってくるのではないかと、保護者の立場としては思っているところです。以上です。

**【朝長市長】**

ありがとうございました。内海委員お願いします。

**【内海教育委員】**

企業の経営者の立場で言うと、今まで公会計化を何でしていなかったのだろうと思います。現金を扱うということで人の手を煩わせる、それを人件費として捉える。その経費と、資料の4ページに記載がありますけれども、システム経費800万、年間保守60万。これは企業としていうと、デメリットではなく、人件費を削減する効果があるので、メリットとして捉えるところです。公会計化により、先生方を楽にするということではなく、今、学校の現場はほんとうに時間が足りない、片一方では働き方改革をやっていかないといけないという板挟みになっているのが現状だと思います。公会計化を導入することで、一人一人の子どもにもっと目を向けたり、教材の研究であるというような、本来業務に時間を確保することができるのではないかと思います。

このように、メリットはたくさんあると思っていますので、市としてのデメリットはあるかもしれませんが、これは必要経費とぜひ見ていただいて、一日も早く取り組んでほしいなと思いました。以上です。

**【朝長市長】**

ありがとうございました。それでは、教育長に総括していただきます。

**【西本教育長】**

給食費の私会計は、給食制度が始まって以来の歴史があったのではないかと考えています。その当時は、学校でそれぞれの、物資の調達や支払いとかをやっていた経過があったものと推測しています。現在、佐世保市は、給食会という一つの大きな組織を持って、食材の購入も支払いも全部学校に代わり行っておりますので、公会計化を導入する環境としては整っている。いつ公会計に移行してもおかしくない環境にあったものと思っていますので、ある意味、学校間の不公

平感がない状況であれば早くやるべきこととっていました。

いろいろ課題はあるにしても、一つ一つ乗り越えていけば、そう難しい話ではないのではないかと考えておりますので、これについては、今、所管の課長からも話がありましたように、その方向に向けて取り組むべき、早急にどういう形でするか具体案を持って行かないといけないのかなと思っています。ありがとうございました。

**【朝長市長】**

ありがとうございました。

ご意見としては皆さんそれぞれ、もう公会計化にすべきだというご意見だと思います。私もそう思っております。まさしく遅きに失しているという感じでございますので、ぜひ早くこれは取り組むべきことだと思っています。できれば、教育委員会の次年度の新しい取組として、計画をし、ぜひ提案をしていただければと思っております。ほかございませんでしょうか。

**【全委員】**

ありません。

**【朝長市長】**

ご意見、交換をいただきまして、ありがとうございました。皆様におかれましてはお忙しい中にお集まりいただき、まことにありがとうございました。

今後とも、この総合教育会議は非常に大事な会議だと思っておりますので、逐次、開催をさせていただきたいと思っております。その節はまたよろしくお願い申し上げます。

それでは、今日の第1回目の総合教育会議は終了したいと思います。ありがとうございました。

**【松尾総務課長】**

ありがとうございました。それでは令和元年度第1回目の総合教育会議をこれで終了させていただきます。どうもありがとうございました。

----- 了 -----